

---

# 酷い話

藤森 応輝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

酷い話

### 【Nコード】

N8965Y

### 【作者名】

藤森応輝

### 【あらすじ】

父と母と兄を殺された、少女の仇討ちの話

ある男に、父を殺され、母を殺された。大好きだったお兄ちゃんも殺された。私が10歳の時だ。

その仇を討つ為に、私は剣の修業を積んだ。それまで剣など握った事もなかったが、朝から晩まで剣を振り続けた。

小さくて可愛い手。兄からそう言われた手で、血豆が出来ても剣を離さず、それでも剣を振り続けた。皮膚は分厚くなり、うまく拳を握る事すら出来なくなった。でも、構わない、剣を握るには不便はなかったから。

漆黒の美しい長い髪。母からそう言われた腰までであった髪は、邪魔だから切った。ろくに手入れもせず、縮れ波打った。でも、構わない、剣を握るには不便はなかったから。

美しい顔立ち。父からそう言われた瞳は暗い影を落とし、顎は力いっぱい剣を振る時に食いしばっていたので、四角く逞しくなった。白い肌は日に焼けて、黒くざらついた。でも、構わない剣を握るには、不便はなかったから。

20歳になった時、村で私にかなう男は居なくなっていた。そして私は村を出た。

村を出たのは、村で一番強くなったからでも、成人と呼ばれる年齢になったからでもなかった。10歳の時に家族を殺された。その年齢と同じだけの期間、剣の修業を積んだ。だから仇を討ちに出たのだ。

仇を探すのには骨を折った。何せ10歳の時の記憶だ。方々で聞き込みを続けたが、まるで蜘蛛の糸を手繰るかの様な作業。

慎重に糸を手繰っても、いとも簡単にぶつりと切れた。

それでも、あきらめずに糸を手繰り続けた。そしてついにその仇を見つけたのだ。私は25歳になっていた。男はもう知っていた。仇を探す途中、そいつの行方を知りたかったら、体を差し出せという奴が居たのだ。

その言葉に私はびつくりした。そう言えば自分は女だったんだ。自分でも忘れていたのだ。そして、こんな小汚い女を抱きたいなんて、物好きな奴だと思った。

だけど、その男は殺した。代償に体を求めたからではない。仇の行方を知っていると言うのが嘘だったからだ。だがこの男には少し感謝した。自分の様な者の体でも、交渉の材料になると教えてくれたからだ。

そして私は、金や体を差し出して情報を集め、遂に仇の元まで辿り着いたのだった。

小さな村の外れに、その孤児院はあった。

親を失った子供、親から捨てられた子供が沢山引き取られていた。孤児院は一人の男が支えていた。朝から晩まで働き、子供達の食い扶ちを稼いでいる。だがそれは、ただの仮面。その善人ずらした裏ではどす黒い物が詰まっているのだ。

その男こそが、私の仇なのだから。

今でこそ無害そうにしているが、中々の手だれのはずだ。私でも勝てるか分からない。それに他の人間がいるところでは、さすがに襲撃出来ない。私は男の生活を観察し、隙を待った。

だが、男はいつ寝ているのかと思えるほど、ずっと働き、孤児院に戻ると子供達と遊んだ。常に誰かと一緒にいるのだ。

そうしている間に、男の噂を聞いた。

昔は悪人だったが、改心して善人になり、今までの罪滅ぼしに子供達を養っているのだという。村の人々や子供達は、男が悪人だった事を知っていて、慕っているのだという。

私は以前にもまして、男を観察した。そして、確かに私から見ても、男が本心から改心し、善人になっているとしか思えなかった。

ある日、孤児院で男が子供達と遊んでいた。

私は男に近づく。男は私の顔を見て、悲しそうな顔をした。どうやら私の事を覚えていた様だ。

お父さんとお母さん、お兄ちゃんを返して！　そういえば、そう言つてこの男に殴りかかった気がする。男はその時の事を覚えていたみたいだ。

もしかすると、それで子供達を引き取っているのだろうか？　自分の所為で家族を失った、私への贖罪の積りで。

剣を抜き放つと、男を真つ二つに切った。手だれのはずの男は避け様ともせず、その剣を受けたのだ。男は避けないだろうと思って

いた。なにせこいつは善人なのだ。

お父さんを返せ！ 子供達は口々にそう言って、私に飛びかかってきた。そのすべてを殴り倒して、高笑いした。

さあ、大きくなったら、仇を討ちに来なさい。私は、悪人のままで待っていてあげる。善人になっているなんて、そんなひどい事はないから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8965y/>

---

酷い話

2011年11月26日22時49分発行